

令和6年度 第1回香芝市男女共同参画推進委員会 議事要旨

1. 開催日時：令和6年8月1日（木） 午前10時～11時30分

2. 場所：香芝市役所3階 第1会議室

3. 議事

※■：事務局より説明 / 主な意見：○委員、●事務局

(1) 第3次香芝市男女共同参画プランの進捗等について

■事務局：案件説明

- 委員 防災分野に関し、簡易トイレの備蓄数が23,800回分となっているが、どこから算出されているか。また、女性防災リーダーの育成は香芝市内だけでなく、全ての自治体で急務だとされており、防災分野においては特に、地域で女性の防災リーダーを生かす必要があるため、自治会において登用する工夫をすべきである。防災士の資格取得を促すだけでなく、女性防災リーダー研修を実施している自治体もある。必ずしも、防災士の資格を取りに行っていたことだけが女性防災リーダーの育成ではないことを、皆様にもご周知いただきたい。
- 委員 防災担当の職員の男女比で男性5名女性1名となっている。1名いるが、複数いないと意見が言えないとされているので、1名ではだめだと思う。
- 事務局 担当職員というところで、危機管理課の職員を数えているという事だと思う。
- 委員 相当平気で生理の話とかできる人でないと厳しいと思う。私ならできるが、そうはいかない方がいらっしゃるのも当然だと思う。また、急な招集で対応しなければいけないので入れにくいのだとも思う。
- 委員 男性5名女性1名のところで、さらにこの6名の中でも担当があるのかなと思う。この人はこの担当、だから男性、女性というのがあればと思う。防災という大きな枠組みを紐解くと、こういう理由で女性が1名であるとか、2名になる時に同じ担当で2名なのか、別々の担当で2名なのかで意味合いが変わってくるかと思うので、紐解いて考えていただきたい。
- 事務局 実際のところは所属の職員数を書きいただいているだけなので、事態が起こった段階では、ここに書いている6名で対応するわけではない。避難所班の男女比までは分かりかねる。
- 委員 審議会等委員への女性の登用状況の香芝市防災会議を見ると30名中女性は4名いると。この会議は、部署の方や実際に災害があった際に動かれる方とどういった連携をとっていくのか、あるいは、事前の準備をするための何

か施策を決めるための会議なのか。

- 事務局 会議の中身までは分かりかねる。政策を進めていくための会議だと思う。地域防災計画等の策定の会議なので、現実的な動きや連携のところまではうちの所管ではわからない。
- 委員 5名1名の比率、30名4名の比率のお話があったが、女性が増えるといいかなと思う。
- 委員 自分の娘は障がいを持っている。自分の話になるが、災害が起こった時に、家に娘だけで家族がいない場合は心配である。避難所まで避難するというところや避難所でのケア等、具体的に取組んでもらえたらと思う。
- 委員 先ほどの事務局説明の中で、男女の視点だけでなく、高齢者や障がい者、観光客の方々に対する取組の中で、初めてセーフティチップスというアプリを聞いて、実際にすぐに対応できるのか気になった。
- 事務局 危機管理課に聞いてみないと分かりかねるが、避難の状況に関しては策定途中だと思うが、個別避難計画の作成を国から努力義務で言われている。個人個人については福祉との関係もあるが、個人情報の観点からなかなか難しいと聞いている。
- 委員 個別避難行動計画について、国が進めていることに弊害があり、数でしか評価を示すことができないので、中身が伴っていない自治体が出てきている。なので、急いで沢山とは思わない。ただ、個人情報保護法が優位という事は、自分を守ってもらえるための計画であることを、本人、ご家族が理解できていないところがあるので、まずはそこを個人情報保護法、個別避難行動計画が命を守るためということを当事者とご家族に説明しないといけないのではないかと思う。実際問題、他者との関わりが少なくなっている地域が多いので、情報を渡したくないという壁を超えるような活動が大事だと思う。自主防災組織の中でそうやって話を進めていくのは先になるのではないか。そして、外国由来の人たちは、言語の問題に加え、同じように男女や子どものこと等で二重弱者になることが多い。外国人対応のことで言えば市民協働課になると思うので、その範囲に関しては市民協働課でも進めていけることかなと思うので、ぜひ進めていただきたい。
- 委員 セーフティチップスの件で、災害時はネットが使えないことが想定され、事前にアプリのインストールが必要だと思う。翻訳機能も同様にネットが使えないと使用できないと思うが運営をどうするのか気になった。
- 委員 現在716人香芝市内に外国由来の方いる。その方たちが避難所に避難したとして、その方たちの文化が違う、食文化だけでなくハラルもある。国によっては意見がスパッと言える人もいる。日本人は控えめなのでそれを言われるとクレームに聞こえてしまう。その文化の多様性の課題も出てくる。普

段やられている国際交流のなかに防災について考える機会をつくったり、ハザードマップが多言語対応していないということも対応していただきたい。そして、もともと危険度の低い国から来られた方は、そもそも避難所の概念がない方もいるので、それぞれの国の状況を聞いていく、教え合っていく機会が必要だと思う。そして、災害時はやはりインターネットが使えないので、そういったときは人との繋がりが一番なので、それを自主防災組織だけに任せていいのかも気になった。

- 委員 例えば障害者の方で精神疾患など、災害時にパニックに陥りやすいかと思う。実際避難するときに薬をどうするか、メンタルをどのようにコントロールすればよいか、そういった悩みを抱えられている方、日常的に医療を受けられている方についても、どんな手当をしてもらえるのか、どんなサービスを受けられるのかを自治体の法律相談でお伺いすることがある。いわゆる弱者と言われる方でない人でも、それぞれ日常で問題を抱えられている人がいらっしやるので、その方々をどう救い上げるか、何か窓口があればと思う。
- 委員 実際に家から避難所に向かうまでの道のりが厳しい場合、だいたいは自宅での対応になるかと思う。位置的な難しさで避難所に行くまでの間に危険になるところがある。なので、備蓄というように、何が必要かという情報を市などから集めることが重要だと思う。
- 委員 女性の視点がどれだけ入っているか、審議会等委員への女性の登用状況を見ると、やはり男性だけで会議を決めているのもあるように思え、それは問題だと思う。今の時代に男性だけで方針決定ができる、その時代に遅れた女性のいない11の会に対し、市民協働課から何かできないか考えていただきたい。所管するところだけでなく、市全体で増やすアクションをやっていただきたい。審議会のメンバーが任期終了時、そこに女性をいれていただく。結果的に無理なのは仕方ないが、もっと積極的にアクションを起こしていただきたい。
- 委員 男女共同推進委員会をするときには女性を入れなければいけない認識は皆さんあるかと思う。声をかけたかかけてないかも分からないので、声をかけたけどダメだったのか、これは向いてないだろうという感じでそもそも声をかけていないのでも違うと思う。
- 事務局 何年か前に全庁的に周知している。審議会及び委員会等に女性の登用を促しているが、現在こういう状況になる。
- 委員 メンバーが決まり、起案を回すかと思うが、その際に市民協働課にも回すことはできないのか。かなり前に奈良市でも取り入れている。
- 委員 審議会等の女性の割合が30%を超える目標があり、育休取得者も30%を超えたとの事だったので、これから当たり前になっていくであろうという事な

ので、まずはそこまで到達しないといけないという大きな目標を、女性だからなったというのは違うが、けん引するというのは大事だと思う。

○委員 一つは充て職を見直すことが大事だと思う。この委員会でも、市民公募をなぜしないのかと思っている。やりたいと思っている市民もいるのではないか。また、香芝市有害鳥獣防止対策協議会は、免許持ちのなど、どんな人がなれるのか。

●事務局 免許持ちの方も中にはいらっしゃると思う。

○委員 以前から奈良県内にアライグマが出ているかと思う。葛城市の職員研修行った際、仕事の中で女だから、男だからというのはないですか、と聞くと男性の職員が、「アライグマの殺処分は男性がする感じになっていて、それを女性職員にも振っていいのかもやもやしている。」と言っていた。それを女性の職員に聞くと、「差し押さえもしたことがあるし、教えてくれたらできると思う。」と言っていました。女性に向く仕事、男性に向く仕事というところから見直しが必要だと思うし、男性だからしんどい仕事やってもらおうなども見直しが必要だと思う。そして、票のところに「うち女性職員何人」との表記があるが、この表記をしないところも増えている。うち女性というのは男性主体の表記の仕方なので、それも見直したほうが良いと思う。

○委員 審議会等委員への女性の登用状況の資料について、データの性質の観点から、70 個会議がある中で、女性が 5 割以上のものが 70 の内 2 割の 14 あった。ところがその中で、委員総数が定員であるところだけを見ると 32 個ある。それだけに絞って女性が 5 割以上のものは 4 つあった。なので、割合で言うと 6 つか 7 つは同じ比率であれば出てくるものが、それよりも低いという事は、委員にとりあえず数を満たす充て職とかが少ない場合であれば既存の男性の比率が更新されにくいのではないかと思った。それで、人数が埋まりにくい運営協議会の方が女性の比率が高いのは、更新される率が高いところは変わっていきやすいのかと、あくまで数字の話だが、性質の違いが更新のされやすさ、割合の違いに反映されていると思った。もう 1 点あり、審議会等で委員が数十名いる中で女性が 0 名、2 名のものがある。一見すると%が低いということだが、実際は母体となる方の男性比女性比に偏りがあると思う。こういった数字の異常値的なところには、指差しで背景の補足をいれた方が、毎回ここに焦点があたる等、繰り返しになることが避けられるのではないかと思った。時間制限のあるコミュニケーションの中で、あらかじめ調べることができるものは調べておく、焦点を当てやすくしておくことはデータの整理で必要だと思った。

○委員 地域活動における男女共同参画を促進するとあるが、概ね市が主体ではない活動であるため、市として把握するのが難しいのが地域活動である、と解釈

されるのであれば、内容と矛盾するのではないかと思う。地域活動が具体的に何かわからないものに対して、どうやって啓発するのか気になった。

- 委員 香芝というのは古くからの村というところから、新しく移住してこられた方が多い地域になる。外から来られた方の地域活動はどのようなものなのか。旧村よりも新興住宅の方がまちづくりに積極的だと私は感触を持っている。お互いに刺激し合って、地域活動の在り方というのを共有して刺激を与えていただくのがいいのかなと思う。
- 委員 審議会等における女性登用について、関係各課ではどの課も当事者意識が低く対応できていないと感じるというコメントがある。取組結果で「人材登録制度を所管している課に啓発を行うことができなかった」とあるが、所管している課はどこか。どこの課がどこに依頼をしようとしていたかがわからなかったのを教えてほしい。もう1点が、この各課回答の様式に対する意見になるが、目標ナンバーを順番で並べていただきたい。皆さんこの場にきた時に自分の意見がどうかではなくて、出てきた意見全部見て意見されると思うので、順番通りの方が良いのではないかと思った。もう一列、質問に対してこういう風が変わっていきますや、こういう効果を見込んでいますというような列が必要ではないかと思う。
- 委員 やはり何をしても啓発をするという事は大事だと、この前改めて思った。暮らしを考える講座で会長らが男女の無意識の偏見に関する寸劇をしており、その寸劇を見た参加者から、「生活の中でこれはおかしいなとふと気づきました。」という感想が出た。大勢の人の気づきを大事にしていくべきだと思うので、そんなところにたくさんの方が参加して触れてもらえるような、気づいてもらえるような取組を続けてほしい。そして、どうすればたくさんの方が集まるかということも考えながらやってほしい。
- 委員 繰り返しの啓発で気づきを見つけたというような、積み重ねていって、今まで自分が思っていたことを、意識を変えるというような言い方をするけれど、実はそうではなく、考え方や意識というところをアップデートしていくところが繰り返しの啓発からでないといけない。ぜひその場に足を運んで、考える機会を見つけてほしいという事だと思った。
- 委員 年齢や状況をもう少し意識して、働きかけてもらいたい。若い方、Z世代、今の小中高校生では、SNSが主な媒体手段である。ホームページは見ないし、ましてはペーパーなんかいないという話を聞く。他方で、高齢者の方々は紙ベースがいい、もしくは足を運ぶというのが情報として入ってくるというがあるので、ターゲットを意識して広報の媒体を考えてもらいたい。

(2) その他

■事務局 案件説明

今後のスケジュール、委嘱について

以上